

3 沿海部（自然的地域）

今津干潟，和白干潟，長浜海岸，海の中道等の砂浜など，陸域と汽水域などのエコトーン（移行帯）を含む地域です。

生物の重要な生息・生育環境となっており，貴重・希少生物が多くみられます。特に干潟は国内有数の鳥類の渡りの中継地・越冬地で，干潟の保全のほか後背地の環境整備や連続性の確保に留意する必要があります。

《求められる環境の例》

- ・自治会，農協，NPO等活動団体，学校，事業者，県，市などの多様な主体の共働により，干潟や藻場を始めとした沿岸生態系が保全され，多様な海生生物が生息しているほか，カブトガニなどの生息も確認されている
- ・福岡市はシギ・チドリ類をはじめ国内有数の鳥類の渡りの中継地・越冬地となっており，野鳥公園を整備するとともに，国内外の中継地や越冬地と連携して，鳥類とその生息・生育環境の保護に積極的に取り組んでいる
- ・流域での一体的な水質改善による漁場の確保や，各国と協力した海岸線の再生に取り組んでいる
- ・多くの市民が潮干狩りを楽しみ，市外からも多くの観光客が豊かな自然景観を楽しむために訪れている

※「生物多様性ふくおか戦略」より抜粋



写真 沿海部（自然的地域）（和白干潟）

沿海部(自然的地域)の環境配慮の要点

環境配慮の対象とする環境要素	環境配慮の要点
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	古くからの集落が分布する場所が多く、生活域に隣接する場所では、騒音・振動、大気汚染などの公害発生の防止に努めてください。特に道路幅の狭い場所では交通渋滞の緩和に努めてください。
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	和自の前浜干潟(東区)、瑞梅寺川の河口干潟(西区)は、シギ・チドリ類などの渡り鳥やカブトガニを始めとする貴重・希少生物の重要な生息環境となっています。干潟の保全のほか、行動圏の広い鳥類などの生息環境の確保のため、環境の整備や干潟との連続性の確保に配慮してください。
人と自然との豊かな触れ合いの確保	玄海国定公園の指定地域を含み、変化に富んだ美しい海岸線が特徴的な地域です。また、潮干狩りや散策、海水浴などの海洋性のレクリエーションが盛んです。景観資源の直接改変を避け、レクリエーション活動の妨げとならないよう配慮してください。
環境への負荷の低減	廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用のほか、再生可能エネルギーの利用、省エネルギー施設・燃料電池・雨水利用施設の導入等を検討してください。

地域特性	
●自然的条件	
地形等	<p>主に東区、西区の2区に分布する。東区では志賀島から海の中道にかけて砂浜、磯浜が分布し、和自には砂泥質からなる約80haの前浜干潟が発達している。</p> <p>西区では生の松原、今宿、長浜海岸などの海岸線に砂丘が発達している他、瑞梅寺川の河口部は砂泥質からなる約80haの河口干潟が発達している。また長垂の含紅雲母ペグマタイト岩脈(国天然記念物)、今山の玄武岩、毘沙門山の玄武岩・変成岩などの価値の高い地質が見られる。</p>
植生	<p>水際に近い部分には草地(河川河口部からその周辺のヨシクラス、塩沼地植生、砂浜部の砂丘植生など)、内陸側には広くクロマツ群落が成立する。また海岸断崖地にはマサキトベラ群集、オニヤブソテツ-ハマビワ群落が発達する。</p> <p>クロマツ群落は、マツノサイセンチュウによる松枯れの被害が著しく、林内は荒廃している。</p>
生物多様性	<p>沿海部(自然的地域)を特徴づける貴重・希少生物は、「河川河口部、前浜に発達した干潟と周辺塩沼地」、「海岸線に発達した砂丘、砂丘草原」に生息・生育するものが多い。後背地のエコトーンには、里山・田園地域と共通する生物が多いが、干潟と一体的に利用している鳥類や、低平地に特有の植物も見られる。</p> <p><沿海部(自然的地域)を特徴づける貴重・希少生物></p> <p>爬虫類：アカウミガメ [海の中道]</p> <p>鳥類：シギ・チドリ類、ガン・カモ類、クロツラヘラサギ [和自干潟、今津干潟]</p> <p>昆虫類：ハマベウスバカゲロウ、カワラハンミョウ、ハマバツチカメムシ、ニッポンハナダカバチ</p> <p>甲殻類その他：カブトガニ、ハクセンシオマネキ</p> <p>植物：ヒトモトススキ、ハマニンニク、ウラギク、ハマサジ [和自干潟、今津干潟]、フクド [今津干潟]、ナンゴクデンジソウ [今津干潟周辺]</p> <p>沿海部(自然的地域)の生物多様性を特徴付ける鳥類は、干潟とその後背地を生息環境としている。そのため干潟の保全の他、後背地の環境整備や連続性の確保に留意する必要がある。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>クロツラヘラサギ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ナンゴクデンジソウ</p> </div> </div>

●社会的条件	
生活環境	<p>博多湾東部海域の水質は、博多湾の他の海域に比べると汚濁が進んでいる。水域の閉鎖性は高く、和白干潟を中心にアオサが堆積するため、毎年除去作業を行っている。</p> <p>沿線道路での渋滞発生がしばしば見られるが、道路整備により緩和されてきている。</p> <p>上下水道整備は行われているが、古くからの集落では地下水の利用を行っている地域もある。事業による地下水のくみ上げでは、地下水と海水のバランスを崩さないよう配慮する必要がある。</p> <p>宮浦、西浦では、集落排水施設にて、し尿、生活雑排水等の汚水処理を行い、生活環境の向上や水質の保全を図っている。</p>
景観・歴史	<p>海の中道の北側周辺は玄海国定公園に指定されており、砂浜、磯浜、植生などが良好な海岸景観を形成している。</p> <p>生の松原、長垂、今山、今津の海岸には元寇防塁の遺構が残されており、国の文化財に指定されている。</p> <p>潮干狩りや散策、海水浴など、海浜性レクリエーションの場としての利用が盛んに行われている。</p> <p>東部及び西部の沿岸部には、漁港や海づり公園といった施設が整備されている。</p>
その他	プラスチックの漂着ごみがみられる。
環境配慮事項	
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持	
周辺住宅への騒音や振動、車両の走行による渋滞の助長対策	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 沿道に遮音壁を設置する。 <input type="checkbox"/> 道路を低騒音舗装にする。 <input type="checkbox"/> 施工規模に見合った低公害型・省エネルギー型の作業機械を導入する。 <input type="checkbox"/> 作業に伴う、騒音・振動、排気ガス、粉じんなどの発生・拡散を極力抑える工法を採用する。 <input type="checkbox"/> 資材等運搬車両、作業機械は、騒音・振動、排気ガス、粉じんの発生を極力抑えた運転を行う。 <input type="checkbox"/> 防音パネル・シートを設置し、施工時の騒音の拡散を抑制する。 <input type="checkbox"/> 工事は休日を避けるほか、工事車両の走行は一般車両の多い時間帯を避ける。
大気汚染や水質汚濁などの公害発生の防止	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 適切な作業・防じん対策、アスベスト対策、ダイオキシン類対策を実施する。 <input type="checkbox"/> 路面の改良・補修を適宜実施する。 <input type="checkbox"/> 作業機械は良質燃料を使用し、整備点検を適宜行う。 <input type="checkbox"/> 汚水処理施設などによって汚水を適正に処理し、海への流出を抑制する。 <input type="checkbox"/> コンクリート打設時のアルカリ性排水を中和処理する。 <input type="checkbox"/> 施設などにおいて、最新の環境保全設備の導入を図り、環境汚染物質の排出を抑制する。 <input type="checkbox"/> 土置き場への防じんネット・シート、砕石の敷設、散水の実施などによって、粉じん・飛砂の発生・拡散を抑制する。 <input type="checkbox"/> 事業活動による地下水利用の抑制を検討する。

生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全	
干潟や魚介類などの近海域の生態系への影響の軽減対策	<ul style="list-style-type: none"> □ 法面や仮施設跡地、裸地は、表土の吹き付けなどにより在来植生の復元を図る。 □ 濁りの発生が少ない工法を採用するなど、水質を保全する。 □ 自然地形を活かした施設計画への変更など、地形の改変面積や切土・盛土の土工量を極力少なくする。 □ 海への土壌、土砂の過剰な流出を防止するため、地形の改変を極力少なくし、切土法面にはコンクリート擁壁、盛土法面にはブロック設置等を行う。 □ 沿岸部では、護岸、岸壁、堤防の設置・補強によって、土壌、土砂の浸食、堆積を防ぐ。
貴重・希少生物等の生息・生育環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> □ 貴重な生物の生息・生育地は保護区域に指定して、人の立入りも制限するなど、ゾーン分けを行う。 □ 動物の繁殖期及び冬眠時期や渡り鳥の渡来時期、植物開花時期など、配慮対象とする貴重・希少生物の生息・生育条件に影響を与える時期の施工を控える。 □ 貴重・希少生物の生息・生育地としての環境利用を考慮し、後背地との連続性を確保する。 □ 植生管理を行い、生物の生息・生育場所としての質の向上を図る。 □ 人工の藻場、魚礁など、海生生物、鳥類の新たな生息・生育環境を創造する。 □ 堤防・護岸には、巨石など多様な空隙構造をもつ材料を使用する。 □ 護岸・防波堤の改良・整備にあたっては、魚巢ブロックや自然石の石組みにより自然環境や親水性を回復・確保する。 □ 作業機械による周辺緑地等への立入や踏みつけに注意する。 □ 一部這い出し口の付いたU字溝や集水柵を設置する。 □ 立入防止フェンスやネット、道路擁壁などの侵入防止施設を設置する。 □ 落葉は腐葉土化するなど、土壌に還元する。 □ 人工光による影響を軽減するために、灯具の種類、設置数、位置、光色について検討する。 □ 代替地の創造や移植を行う。 □ 生物の生息・生育状況について、供用後のモニタリング調査を実施する。
外来生物対策	<ul style="list-style-type: none"> □ 公園樹木、緑化植物は、公園の性格・特性にあった在来植物種を選定し、外来種を避ける。 □ 果樹や花木、緑化植物が自然林内に広がらないように適正な管理を行う。
人と自然との豊かな触れ合いの確保	
貴重な地形・自然景観、文化財・歴史的資産の保全	<ul style="list-style-type: none"> □ 自然地形を活かした施設配置など、貴重な地形、自然的地形の改変面積や切土・盛土の土工量を極力少なくする。
人と自然との触れ合いを考慮した施設構造の検討	<ul style="list-style-type: none"> □ 遊歩道やサイクリング道路など、市民のレクリエーション活動を考慮した施設を整備する。 □ 緩傾斜護岸、階段護岸、自然石組護岸など、市民が利用しやすい形状の護岸を整備し、パブリックアクセスを確保する。 □ 木杭・石組など、自然素材を活用した施設を設置する。 □ 橋脚や護岸、コンクリート施設などの配置やデザインや形状、色彩を工夫する。 □ 自然素材の導入や自然的構造物の設置を検討する。
環境への負荷の低減	
環境負荷の低減を考慮した計画	<ul style="list-style-type: none"> □ 施工方法の工夫や破碎、焼却、脱水、乾燥などによって廃棄物の減量化を図る。 □ 不法投棄を防止し、適正処分を徹底する。 □ 解体作業が発生する場合は分別解体に努め、再資源化率の向上を図る。 □ 路床材や舗装骨材、枕木は、極力再生品を調達する。 □ 熱帯木材型枠の使用を削減する。 □ 残土の現場内及び他工事での活用、再資源化などによる再利用を推進する。 □ 工程で発生した廃棄物の再使用、再利用を図る。 □ 雨水利用、燃料電池、再生可能エネルギー利用施設の導入など、既存のライフラインに依存しない仕組みを検討する。